

# 令和5年度 都市農業にトライ！

—持続可能な都市農業を目指して—



令和6年2月  
農林水産省



# はじめに



## 都市農業の評価は時代とともに変化

- ◆ 高度経済成長期の急激な都市化により宅地需要が高まり、地価が急上昇すると、都市で大規模な農地を有する都市農業への風当たりが強まり、都市農業は縮小していきました。
- ◆ しかし、近年、都市への人口流入の鈍化により開発圧力が低下したことに加え、都市住民の食への意識が高まり、ゆとりや潤いを求めるライフスタイルへと変化しました。こうした変化に伴い、身近な農地で生産された新鮮な野菜を手に入れたい、自らの手で野菜をつくりたい、子供達に土に触れさせたいといった、都市農業に対するニーズや評価が高まっています。
- ◆ また、先の新型コロナウイルスの感染拡大や世界的な気候変動、ウクライナ情勢・円安の影響による物価上昇等により、従来の生活スタイルが通用しない状況が生まれ、都市農業を見直す契機になっています。特に、コロナ禍をきっかけに市民農園やコミュニティ農園の利用、身近に存在する農産物直売所、生産地の存在意義が再認識され、都市農業・都市農地に対する関心が高まっているとも言われています。



## 都市農業を未来に繋げるためには

- ◆ 都市に潤いをもたらし、都市住民の生活の向上にも寄与する都市農業の安定的な継続のためには、持続可能な農業生産が行われることが大切です。
- ◆ しかしながら、都市農業が営まれる都市農地は一般的に面積が小さく、経営発展のためにどのような取組を行うべきか、苦慮されているという声をお聞きします。
- ◆ 一方で都市農業者の中には、生産現場と消費者との距離が近いという都市農業のメリットを最大限に活かした特色ある取組をされている方も多くいらっしゃいます。
- ◆ このため、今後の経営発展の参考としていただけるよう、モデルとなる都市農業者の取組や秘訣などをまとめた事例集を作成しました。今回は、令和5年度に取材した9農家及び4カ所のコミュニティ農園を紹介します。
- ◇ 本事例集が、都市農業者の方の農業経営の発展に寄与し、都市農業を未来に繋げるための一助となることを期待申し上げます。
- ◇ 最後になりますが、本事例集を作成するにあたり御協力いただきました皆さまにこの場を借りて厚くお礼申し上げます。

# 目次

所在地	経営体名	ページ
<b>01 都市農業のビジネスモデルの事例</b>		
埼玉県 所沢市	松村ナーセリー 松村 みよ子 さん	7
東京都 練馬区	東京ワイナリー 越後屋 美和 さん	9
東京都 三鷹市	鴨志田農園 鴨志田 純 さん	11
東京都 日野市	株市会社ネイバーズファーム 梅村 桂 さん	13
東京都 清瀬市	横山園芸 横山 直樹 さん	15
東京都 あきる野市	笹本農園 笹本 善之 さん	17
神奈川県 横浜市	苅部農園 苅部 博之 さん	19
千葉県 松戸市	鶺殿シトラスファーム 鶺殿 敏弘 さん	21
京都府 京都市	修学院扇子 扇子 次郎 さん	23
<b>02 都市部におけるコミュニティ農園の事例</b>		
東京都 中央区	Edible KAYABAYEN	27
東京都 墨田区	たもんじ交流農園	29
兵庫県 神戸市	シェラトンファーム	31
兵庫県 尼崎市	コミュニティファーム尼崎市善法寺	33



農業体験・  
交流活動の場

新鮮な  
農産物の供給

災害時の  
防災空間

**都市農業の  
多様な機能**

国土・環境の  
保全

都市住民の  
農業への  
理解醸成

心やすらぐ  
緑地空間



## 首都圏（埼玉県, 東京都, 神奈川県, 千葉県）



松村ナーセリー



横山園芸



東京ワイナリー



鵜殿シトラスファーム



笹本農園



たもんじ交流農園



(株)ネイバーズファーム



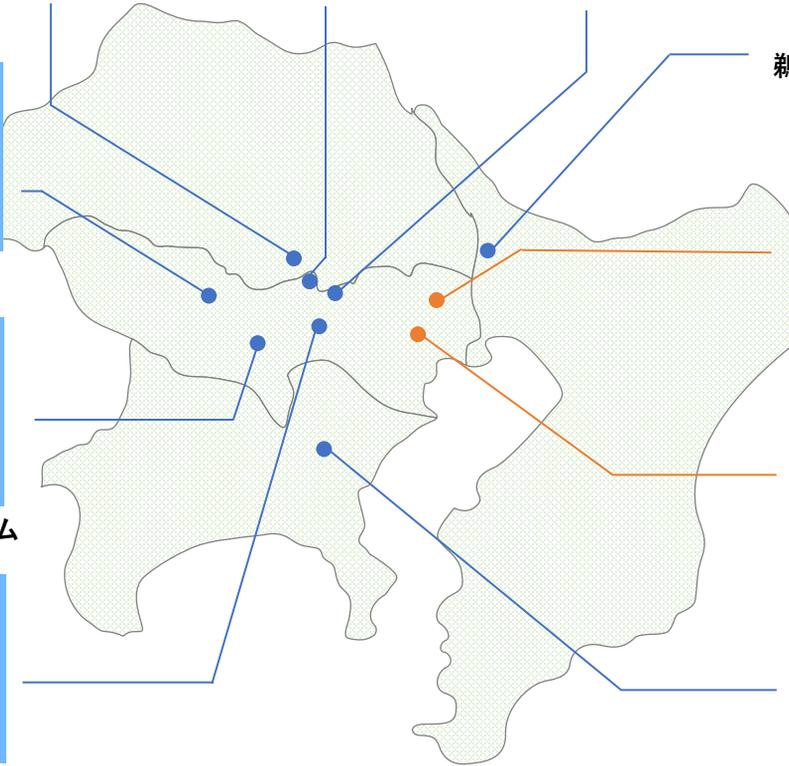
Edible KAYABAEN



鴨志田農園



苅部農園



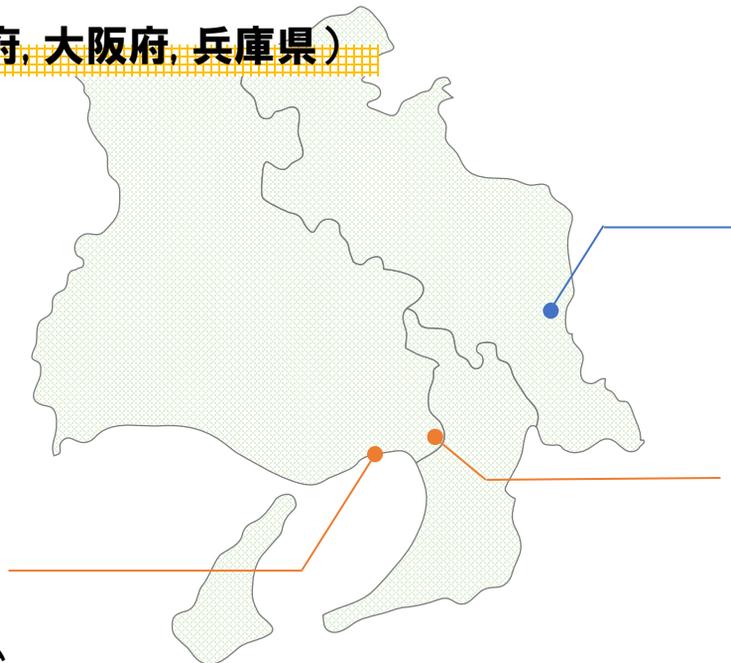
## 近畿圏（京都府, 大阪府, 兵庫県）



修学院扇子



シェラトンファーム



コミュニティファーム  
尼崎市善法寺



- ✓ 都市農業では、生産の場と消費の場が近いというメリットを活かし、工夫次第では収益性が高い農業経営が可能です。
- ✓ 都市農業のモデルとなる取組を行っている農業者を事例として紹介します。

今後の取組のステップアップにご活用ください。

## 事例一覧

- 1 松村ナーセリー 花き生産/都市農地貸借法/市場出荷 7
  - 葉もお花も楽しめるクリスマスローズを世界に！
- 2 東京ワイナリー 6次化/都市農地貸借法/コミュニティ醸成 9
  - ワインづくりを通して都市農業の魅力を発信！
- 3 鴨志田農園 少量多品目/循環型農業/CSA 11
  - 都市住民と連携し循環型農業を実践！
- 4 (株)ネイバースファーム 少量多品目/都市農地貸借法/法人化 13
  - 消費者の近くで農業への思いを実現！
- 5 横山園芸 花き生産/環境負荷低減/情報発信 15
  - 日常に花のある文化・価値を拡げたい！
- 6 笹本農園 多品目/直売・加工/農業体験 17
  - 地域最大規模の直売農業×職業体験プログラム！
- 7 苅部農園 オリジナル野菜/直売・加工/担い手育成 19
  - 都市農業の多様な取組で「日本農業賞」特別賞を受賞！
- 8 鵜殿シトラスファーム 直売・加工/大学連携/環境負荷低減 21
  - 北限ぎりぎりでも新松戸産レモンを栽培！
- 9 修学院扇子 少量多品目/都市農地貸借法/環境負荷低減 23
  - 安心安全な野菜・お米づくりを追求！

## 埼玉県所沢市 松村ナーセリー 松村みよ子さん

## 葉もお花も楽しめる

## クリスマスローズを世界に！

世界で初めてクリスマスローズをカラーリーフとして確立



埼玉県所沢市



## Point

花き生産

都市農地貸借法

市場出荷

## Data

経営面積		従業員	
40a うち市街化区域内29a (生産緑地 29a)		常時雇用 2人 パート4人	
売上高			
~1000万	1000万~3000万	3000万~	
栽培別内訳			
[露地]		[その他]	
[施設] クリスマスローズ 約22種類 (東京・埼玉 パイプハウス17棟 /山梨 11棟)			

松村ナーセリーは、埼玉県所沢市のほか、東京都清瀬市や山梨県内の複数の農地を借入している。東所沢の農地は所沢ICから約3kmに位置し、周囲には茶畑をはじめとする農地が多く残る地域。

## 取組の特徴を教えてください

- ◆東京郊外の点在した農地でクリスマスローズの育種・生産を行っています。特に、葉の色や形、斑の模様も楽しめるカラーリーフのクリスマスローズにこだわり、オリジナル品種を生み出しています。
- ◆花き生産を始めたのは父母の代からで、父が1970年代にクリスマスローズに出会い、栽培管理、交配、育種を始めたのがきっかけです。
- ◆販売先は9割が市場出荷で、残りの1割はネットショップやお得意様の小売店に直接卸しています。苗を出荷する際は、色の綺麗な葉が表側に来るようにラベルの向きを揃えたり、葉の高さを調整するなど、見栄えにこだわっています。
- ◆コロナ禍のイベント中止等による売上の影響は少なく、逆に、外出制限の影響で園芸ブームが起これり、多くの方に購入していただきました。
- ◆SNSを活用した情報発信に力を入れており、特にFacebookでは、園芸に関心が高い世代の利用が多く、個人から園芸関係者まで3,000人以上のフォロワーに向けて日々発信しています。



Facebookを活用した発信

## 農地貸借の経緯を教えてください

- ◆メインの生産地である東所沢の農地は、元々ネモフィラ農家だった地主さんが廃業したため、2023年から借りています。パイプハウス7棟を整備し、昔豚舎だった建物2棟を使用しています。
- ◆そのほか、都市農地貸借円滑化法を活用し、清瀬市の生産緑地を2カ所借りています。花き生産は施設の設置が前提となることから、土地の確保に苦慮しましたが、相談し続けたところ、2020年に1カ所目の農地、2022年には2カ所目の農地を借りることができました。
- ◆また、山上げ（夏から秋の間、栽培する花苗を平地から高冷地に移して栽培する方法）用の農地として、東京都農業会議より紹介を受け、山梨県内の農地を借りています。



メインで生産を行う東所沢の農場



山梨県内の農場

## 苦労していることがあれば教えてください

- ◆昨今の物価上昇に伴い、肥料や資材価格は以前の2倍程度に高騰するなど、負担になっています。人件費については、固定給のベースアップを行ったため、コストが大きく上がったのですが、その分も考慮して販売価格を見直したので、ある程度は影響を緩和することができました。
- ◆販路拡大のためネット販売や小売等も検討していますが、梱包作業などで手間がかかることから、人手が少ない現状で広げることは難しいです。また、援農ボランティアや新たなスタッフ等の受入りの指導體制が整っていないことも課題だと感じます。

## 今後の展望を教えてください

- ◆販売方法を工夫し、年間売上を5年以内に約60%アップすることが現在の目標です。マルシェでの直接販売をはじめ、将来的にはクリスマスローズの個展を開催したいと考えています。
- ◆また、海外ではカラーリーフのクリスマスローズは珍しいことから、販路を拡大できるチャンスが見込めるのではないかと考えており、輸出にも挑戦していきたい。
- ◆クリスマスローズの育種を続けている中で、これまでにない色や模様が発生するなど、日々変化が起きています。それを絶やしたくないという気持ちが強く、今後10年間は頑張って生産を続けていきたいと思います。



マルシェ出店の様子



ヨーロッパでの販売の様子

## 東京都練馬区 東京ワイナリー 越後屋美和さん

## ワインづくりを通して

## 都市農業の魅力を発信！

市民や農家と協力し、練馬産ブドウでワインの製造に挑戦



## Point

6次化

都市農地貸借法

コミュニティ醸成

## Data

経営面積		従業員	
31a うち市街化区域内 31a (生産緑地 31a)		非正規雇用3人	
売上高			
~1000万	1000万~3000万	3000万~	
栽培別内訳			
[露地 (31a)] 醸造用ブドウ 17種類			
[施設]		[その他] ワイン 30~40種類	

東京ワイナリーは、西武池袋線大泉学園駅よりおよそ750m（徒歩10分）に立地している。ワイナリーの自社圃場は、練馬区大泉の市街化区域に位置し、戸建て住宅やアパートが密集する住宅地の中にある。

## 取組の特徴を教えてください

- ◆2014年に東京23区初のワイナリーを設立し、生産したブドウでワインの製造・販売を行っています。
- ◆東京ワイナリーのコンセプトは、ワインづくりを通して東京農業、東京野菜の魅力を広めること。都市部のメリットを活かし、立ち上げ当初から地域とのつながりを重視してきました。2018年には、練馬区の「地域おこしプロジェクト」に採択され、区内農家や飲食店等と協働して「ねりまワインプロジェクト」の取組を始めました。
- ◆同プロジェクトでは、本格的に醸造用ブドウの栽培技術を学びたい人向けに、有償のクラブ活動「栽培くらぶ」を行っています。また、ブドウ栽培からワイン醸造までの作業を手伝っていただく「ねりまワインファームメイト」を常時募集しており、現在約1,000名の登録があり、ワインづくりの工程や完成したワインを楽しんでいただいています。
- ◆東京ワイナリーが製造するワインのうち、およそ2割は練馬産ブドウを使用し、それ以外は長野県、北海道などから仕入れています。ワイナリーの店舗やオンラインショップ、小売店等で販売していますが、新しいコミュニティ層や他業種とつながるきっかけとして、マルシェイベントへの出店にも力を入れています。

## 農地貸借の経緯を教えてください

- ◆設立当初は、醸造用ブドウを買い取ってワインづくりに専念していましたが、宅地転換により周囲の農地が減少していく状況に、次第に自分もブドウづくりに携わりたいという思いが強くなりました。
- ◆設立2年後からは、練馬区内の6件の農家さんにブドウ栽培を依頼し、自らも手伝う形で関わりながら、栽培されたブドウを買取りし、練馬産ワインの製造を始めました。
- ◆ブドウづくりに携わる中で、耕作しきれない生産緑地を所有している農家さんから相談を受け、2019年に都市農地貸借円滑化法を活用し、東京ワイナリー初めての自社圃場を借りました。
- ◆その後、他の農家さんからもお声かけがあり、2022年には2つ目の自社圃場として、元々柿畑だった生産緑地を借りることができました。



一つ目の自社圃場「Tetto」 近くに送電用鉄塔があることから名づけられた



二つ目の自社圃場「Kaki」

## 工夫していることがあれば教えてください

- ◆ブドウの仕立ては、ヨーロッパに多い垣根方式を採用しています。棚方式と比べると収穫量は少ないですが、労働効率性の高さ、栽培管理のしやすさ、施工費用の安さなどのメリットがあります。
- ◆また、その土地のもので育てる農法（テロワール）をこころがけています。自社圃場では草生栽培を実践しており、余分な水分は雑草が吸収し、土壌の水分含量が少なくなることで、ブドウの糖度が上昇するなどの効果があります。
- ◆前例がなく困難は多いですが、試験的に様々な方法を取り入れながら、練馬の土地に適した品種や栽培技術を目指しています。
- ◆ワインの搾りかすは、近隣の農家に堆肥として活用していただいています。残渣は酸性のため、練馬区で生産が盛んなブルーベリー畑への施用に適しています。



## 今後の展望を教えてください

- ◆今後も試行錯誤しながらブドウを作り続け、練馬産ブドウの収量を増やすことが目標です。また、今後は後継者の育成にも力を入れていきたいと考えています。
- ◆将来的には、ワイナリーや農家レストラン等の施設を畑に隣接した場所に設けることで、ワインづくりで出会った仲間と共に、ワインをきっかけとした地域づくりに貢献したいと考えています。

## 東京都三鷹市 鴨志田農園 鴨志田純さん

## 都市住民と連携し循環型農業を実践！

地域の未利用資源を堆肥化し、価値に置換していく



鴨志田農園



東京都三鷹市



## Point

少量多品目

循環型農業

CSA

## Data

経営面積		従業員	
28a うち市街化区域内28a (生産緑地28ha)		家族2人	
売上高			
～1000万	1000万～3000万	3000万～	
栽培別内訳			
[露地] 野菜約40種類			
[施設]		[その他]	

鴨志田さんの農地は、JR三鷹駅からおよそ1.5kmの市街化区域に位置し、戸建て住宅やアパートが密集する住宅地の中にある。

## 取組の特徴を教えてください

◆地域の捨てられるはずだった未利用資源を堆肥化し、野菜づくりに役立てています。20km圏内にある製材所のおがくず、大学馬術部の馬糞、ご家庭の食物残渣などを引き取り、野菜づくりの堆肥にすることで価値へと変換しています。農園では完熟堆肥のみを使用する農法にこだわり、60度以上の高温まで熟成させることで、病原菌が発生しない安心な栽培環境を作っています。



◆28aの小規模な農地で、効率的な作付け計画を行い、年間約40種類の野菜を栽培しています。「日々の食卓や暮らしの提案となること」を農園のテーマとし、ECサイト「ポケットマルシェ」などで毎月6～8種類の野菜をおまかせセットにして販売しています。今年の4月からは、妻が料理教室を始めました。

◆地域の会員が資源循環に参加するCSA\*の取組にも力を入れています。地域コミュニティと顔の見える関係を築き、経済合理性を高めつつ環境負荷軽減を行う「サーキュラーエコノミー」の考えを実践しています。 \*CSA (Community Supported Agriculture | 地域支援型農業)

## CSAの取組を始めたきっかけを教えてください

◆3年前から、地域のお客様に会員として農産物を購入してもらう代わりに、各家庭にコンポストケースを配置し、堆肥にして農園に持ってきてもらうCSAの取組を行っています。

◆CSAの取組を始めたきっかけは、市民が自分事として関わりやすい循環の仕組みが必要だと感じたからです。都市部では、堆肥を作っても使い道がない人がほとんどだと思います。そこで、身近にいる都市農家が参加することで、より多くの都市住民の資源循環や農業全般に対する興味を広げることができると思いました。

◆CSAの取組は、都市農業の防災機能も果たしています。日頃から顔が見える関係性をつくることで、災害時には食べ物や備蓄している水、電力など提供し、会員のサポートができるように準備しています。会員の家庭に配置しているコンポストケースも、コンポストトイレとして使用することができます。



## 教育分野との連携をされていると聞きました

◆グローバルデザインスクール（株）が主催する食育プログラム「みたかジュニアビレッジ」の技術指導を行っています。前職で高校の数学教諭をしていた経験もあり、子供達が実際に手を動かして収穫から6次化・販売までを行うことで、普段使わない感覚が発達し、教育的な効果があると感じています。卒業生の中には、農家になりたいと言ってくれた生徒もいました。



## ご苦労されたことがあれば教えてください

◆資源循環を実現するには人手が必要で、マンパワー不足を感じています。落ち葉や廃棄物の運搬など、いかに物流に負荷をかけずに資源循環のかたちを作っていけるかが課題だと感じます。現在は自身と母のほかに、インターンの大学生やコンポスト講座の生徒が手伝いに来てくれています。また、市民の方の公益性に頼る部分はとても大きいです。

## 今後の展望を教えてください

◆都市農業という限られた農地だからこそ、収益性が高いビジネス・販売方法でECサイト等の年間売上を1,200万円にしたいです。

◆また、自身の専門性がある教育分野の連携に力を入れていきたいです。農園を教育と実証実験の場と位置づけ、教育分野における農業の価値提供や、新規就農者や移住希望者を地方へつなぐパイプ役となることを目指していきたいです。

◆都市の中で食料自給率を上げていくことは、中々難しいかと思いますが、やり方次第では、良質な肥料自給率については東京が全国1位になる可能性があると思っています。

## 東京都日野市 (株)ネイバースファーム 梅村桂 さん

## 消費者の近くで農業への思いを実現！

都市農地貸借法を活用し全国初の新規就農+農業経営を法人化



## Point

少量多品目

都市農地貸借法

法人化

## Data

経営面積		従業員	
47a うち市街化区域内 47a (生産緑地 47a)		正規雇用2人	
売上高			
~1000万	1000万~3000万	3000万~	
栽培別内訳			
[露地 (37a)] 野菜 約25種類、ブルーベリー			
[施設 (10a)] 野菜 (トマト等)		[その他]	

梅村さんの農地は、京王線高幡不動駅からおよそ500mの市街化区域に位置し、戸建て住宅やアパートが密集する住宅地の中にある。

## 取組の特徴を教えてください

- ◆環境制御型の施設 (ハウス) でトマトの養液栽培に取り組んでいます。施設の面積は7aと規模は小さいですが、徹底した環境管理により、年間1万kg以上の収穫ができており、1千万円以上の売上を達成しました。
- ◆トマトの他にも季節野菜やブルーベリーの栽培にも取り組んでおり、庭先にある無人販売所、JAの直売所、都心部の量販店、ECサイト等で販売しています。
- ◆また、割れたトマトを使用したトマトジャム、余剰収穫を使用したブルーベリージャムの加工品販売にも取り組み、農園の野菜・果物をあますことなく活用しています。
- ◆さらに、「ファームカミングデー」と銘打ち、農園を開放し、近隣の方々が自由に訪れられるイベントを開催しています。収穫体験や試食会を実施し、食べて楽しむだけでなく、農園の場としての価値を感じていただくことで、近隣の方に都市農業の魅力を知っていただきました。



## 都市部での就農のきっかけを教えてください

- ◆大学在学中に海外の発展途上国の農村地帯を回るうちに、「人間の本质である農業」に魅力を感じるようになり、一生の仕事にしようと決心しました。
- ◆大学3年からはさまざまな農家を回り、卒業後農業法人に就職し、トマトの生産に携わっていましたが、やはり自分の農業をやりたいと、独立を決意しました。
- ◆父の故郷である日野市周辺での就農を目指しましたが、トマト栽培に必要なハウスの設置が可能な農地の確保に苦慮しました。
- ◆このような中、東京都農業会議と日野市が連携し、市内の農地所有者に意向を確認していただき、希望に沿う農地の貸借を実現していただきました。

## 工夫していることがあれば教えてください

- ◆持続的な都市農業を実現するため、GAP（農業生産工程管理）に取り組んでいます。
- ◆ハウス内は土足厳禁にする等のルールづくりや農機具の整理整頓、生産から収穫までの工程の見える化をすることで、農産物の安全性のみならず、労働の安全性や環境への配慮に取り組んでいます。
- ◆特に効率的かつ環境への負荷が少ない農業に力を入れており、排出する二酸化炭素の一部を再利用するなど、カーボンニュートラルに貢献しています。また、収穫後のトマトの茎は、チップ化しブルーベリーの畑に農業資材として活用するなど、廃棄の削減・資源循環にも取り組んでいます。
- ◆また、生産者の考えや現場を消費者に知ってもらうために、地域事業者や市内のトマト農家と連携しトマトをテーマにした「ひのトマトフェス」を開催しました。
- ◆フェスではトマトの食べ比べなどの体験イベント、トマトビールの商品企画・開発を行い、日野市のトマトの魅力を発信するとともに、農業者やマルシェのボランティアと飲食事業者とのつながりを創出し、新たな取引の促進にもつながりました。



写真：studio Gift 今泉

## 今後の展望を教えてください

- ◆継続的な農業経営、従業員の福利厚生、そして、農業を組織としての職業としたいという思いがあり、2人目の正規雇用を機に、就農から5年目に法人化をしました。また、新たに近隣の農地を借りることができ、規模拡大とともに、長期で安定して働ける職場にしたいです。
- ◆開園当初からの思いである「近隣の人、地域の方と繋がりながら魅力的な街づくり」のために様々な経営展開にチャレンジしたいです。「日野市といえば、トマト！」と多くの方に評されるよう、近隣の方々や農業者、飲食事業者と一緒に地域を盛り上げていきたいです。

# 日常に花のある文化・価値を拡げたい！

オリジナルの個性を武器に多くのファンを獲得



## Point

花き生産

環境負荷低減

情報発信

## Data

経営面積		従業員	
33a うち市街化区域内 33a (生産緑地 33a)		常時雇用 2人 パート 8人	
売上高			
～1000万	1000万～3000万	3000万～	
栽培別内訳			
[露地 (5a)]	[その他]		
[施設 (33a)]	クリスマスローズ、ダイヤモンドリリー、 原種シクラメン、アネモネ、エディブルフラワー他		

横山園芸は、西武池袋線清瀬駅からおよそ3kmの市街化区域に位置し、周辺の道路沿いにはアパートや戸建て住宅が立ち並び、後方には大区画農地が残る地域にある。

## 取組の特徴を教えてください

- ◆クリスマスローズ、ダイヤモンドリリー、原種シクラメン、アネモネ、エディブルフラワーを中心に年間を通じて花き生産を行っています。同時に複数の品種を生産することで、リスク分散や安定的な経営を図っています。また、農業所得が9割以上を占めていることも特徴です。
- ◆生産量や規格が市場に当てはまらないことも多いため、鑑賞用の花のほとんどを園芸店等の小売店に、エディブルフラワーは高級レストランを中心とした都内の飲食店に直接出荷しています。そのほかには、コロナ禍に開設したオンラインショップも着実に数字を伸ばしています。
- ◆常に時代の先を見据えるように意識して新しい品種の開発を行っており、それが生きがいにつながっています。
- ◆「花が好き」である気持ちを軸に、独自の商品開発と販売方法を強みに経営を行っています。SNSなどの発信で共感して頂くことで、多くの方に支持され、喜んでいただいていると思います。



## 取組のきっかけを教えてください

◆代々野菜農家でしたが、父が花が好きであったこと、小さい面積で収入を上げることを目標に花き生産を始めました。1970年代のオイルショックの影響により、冬場に暖房を必要としない「クリスマスローズ」などの、丈夫な植物に目を付けました。



◆自身は高校卒業までは家業を継ぐことは考えていませんでしたが、イギリスでの2年間の研修を得て、園芸が文化として根付いている姿に、生産者になることへの見方ががらりと変わりました。現在は、生産者であると同時に育種家として生活にお花のある文化を広める活動を行っています。

## 取組の成功の秘訣を教えてください

◆2020年東京オリンピックに向けて、世界の人をもてなすため、エディブルフラワーの生産を始めました。味わいや鮮度、日持ちの長さを意識して生産しています。洗わずにそのまま安心して食べられるよう、限りなく無農薬でオーガニック栽培を実践し、苦味、えぐみを取り除くために化学肥料や動物性堆肥は使用せず、有機性の肥料でじっくり育てています。

◆出荷する際には、切り花のミニブーケのような花束をつくり、生き生きとした鮮度を保持するため、茎を長めに残し、切り口を水を吸わせたスポンジでくるんで配送しています。

◆横山園芸のファンを作ること、生活にお花がある文化・価値を広げることがモットーに、YOUTUBEやSNSでの発信、講演会、雑誌への寄稿等、幅広いチャンネルで積極的に情報発信を行っています。

◆等身大の姿を発信するように意識しており、発信方法や話し方の研究を重ね、花の魅力伝える代弁者になれるよう活動を続けています。



## 今後の展望を教えてください

◆現状の規模を維持しながら、自分のペースで楽しく経営を続けていきたいと考えています。

◆また、地域貢献の一環として農場を総合防災施設とし、災害時には一時避難場所として地域の方に利用してもらいたいと考えています。すでに東京都の補助金を活用し、発電機や井戸を設置しました。

## 東京都あきるの市 笹本農園 笹本善之さん

## 地域最大規模の直売農業

## ×職業体験プログラム！

大規模直売農業とのシナジーにより、農業体験をさらなる価値を持つ職業体験へ昇華させる



東京都あきるの市



## Point

多品目生産

直売・加工

農業体験

## Data

経営面積		従業員	
3.5ha うち市街化区域内 80a (生産緑地 80a)		家族3人 / 正規雇用1人 アルバイト8人	
売上高			
~1000万	1000万~3000万	3000万~	
栽培別内訳			
[露地 (320a)] 季節の野菜 多品目 (年間60品目)			
[施設 (30a)]	トマト、きゅうり、 インゲン、葉菜類	[その他]	1次加工品として 干し大根

笹本さんの農地は、東京都あきる野市の秋留台を中心に23か所に点在している。秋留台は農業振興地域に指定されており、小規模の農地が密集している地域である。

## 取組の特徴を教えてください

- ◆あきる野市の23か所に点在している農地で、年間を通じて約60品目の野菜づくりに取り組んでいます。あきる野特産のとうもろこしをはじめ、食卓に並ぶほとんどの定番野菜を栽培しています。親子二世代の経営でありながら、農業所得割合が95%を超える農業偏重型であることが最大の特徴です。
- ◆地元住民への恩恵が無ければ、畑は迷惑な存在になりかねないとの思いがあり、地元での販売にこだわりをもって取り組んでいます。生産した野菜は、都内最大のJA直売所である秋川ファーマーズセンターや大手スーパーの直売コーナー等、自宅から15分圏内の売り場で95%以上を販売しています。
- ◆点在した農地で効率的な栽培管理や収穫が行われるよう、ビジネス視点を明確に持ちながら、ゲーム感覚で管理を行っています。例えば、消費の拡大と生産拡大を同時に行い、販売量が頭打ちになったら余力を別品目に回すといった戦略をとっています。



## 取組のきっかけを教えてください

- ◆市内で代々続く農家でしたが、調理の道を志し都内ホテルへ就職後、ファミリーレストランに転職し、店長として5年間従事しました。その後、本社のマーケティング企画担当として勤務していたところ、父の病気をきっかけに、31歳の時に家業の農業に取り組むことになりました。
- ◆マーケティングの経験をもとに農業経営を行い、自身が戻ってきてからは7年で売上を2.5倍に伸ばすことができました。しかし、地域最大規模の生産農家に成長したものの、生産一本での経営に限界を感じ、大規模農家ならではのアプローチでコンテンツビジネスを展開しようと思い、農業体験の取組を始めました。

## 新しい農業体験について教えてください

- ◆令和4年12月から本格的な職業体験を実施しています。参加する親子は、畑で採れた野菜を収穫するだけでなく、収穫物を自ら梱包し、秋川ファーマーズセンターの直売所で販売します。これまで、じゃがいも、たけのこ、とうもろこしの体験を開催し、各回平均20名前後の親子連れに参加いただいています。
- ◆体験料は、親子で8,800円（税込）いただいています。料金に見合った体験をしていただくため、しっかりと準備し、当日の運営に臨むようにしています。販売工程や機械を使った収穫など、本格的な農家の職業体験ができるように工夫し、既存の農業体験にはない、新たな価値を生み出すことができました。



\*農業体験の参加者は、株式会社みらいスクールが運営するwebサイト「Gifte」内で募集しています。

## 取組の課題について教えてください

- ◆親子向けのコンテンツビジネスの弱点は、土日祝日等の休みの日の開催となるため、自分のワークライフバランスにも大きく影響することです。集客力向上のためにも、休日以外の集客を進める必要があると感じています。
- ◆認知度を上げていくことが、集客に関する最大のポイントだと考えています。そのため、自分自身の野菜のブランド化・差別化をするよりも、地域のブランド力を高めることを意識しています。地域の農業を底上げすることが、地域の印象として広く拡散され、将来的に自分の利益にもつながると考えています。



## 神奈川県横浜市 苧部農園 苧部博之さん

## 都市農業の多様な取組で

## 「日本農業賞」特別賞を受賞！

オリジナル野菜づくりや農業の人手不足、近隣の農業理解の課題に向けた取組等が評価



神奈川県 横浜市



## Point

オリジナル野菜

直売・加工

担い手育成

## Data

経営面積		従業員	
2.5ha うち市街化区域内2.5ha (生産緑地2.5ha)		家族2人 / 正規雇用1人 アルバイト6人	
売上高			
～1000万	1000万～3000万	3000万～	
栽培別内訳			
[露地] 野菜約100種類 / 果樹 約10種類			
[施設]		[その他]	

苧部さんの農地は、神奈川県横浜市保土ヶ谷区西谷の丘陵地を中心に15か所に点在している。近年は相鉄新横浜線の開通もあり、都心へ約10分でアクセス可能な地域にある。

## 取組の特徴を教えてください

- ◆横浜市保土ヶ谷区の15か所に点在する農地で、オリジナル野菜の「苧部大根」「苧部ネギ」など、年間約100種類の野菜や果樹を栽培しています。収穫した農産物は、すべて駅近の直売所「FRESCO」にて販売しています。
- ◆農業に関心のある人が農作業を体験できる「農業塾」、新規就農を目指す人向けの研修を行う「百姓塾」を開設し、人手不足の解消と就農サポートにつなげています。
- ◆さらに、生産者の考えや現場を消費者に知ってもらうために「畑の見学視察ツアー」の開催や地元小学校での「農業授業」の実施に力を入れています。
- ◆地方の大規模な産地とは違い、生産と販売だけでない都市農業ならではの幅広い取組が評価され、第52回「日本農業賞個人経営の部」の特別賞を受賞することができました。



## 百姓塾・農業塾を始めたきっかけを教えてください

- ◆17年前に父親が他界してから、2.5haに分散している農地を家族で耕作するためには、管理が行き届かず、人手不足の状況でした。そうした中、横浜市には自らお金を支払って農業を学びたい人もいないのではないかと思います、農業を教える代わりに、農作業を手伝ってもらう「農業塾」のシステムを考えました。
- ◆また、非農家から就農を目指す人向けに「百姓塾」を始めました。百姓塾は、県の「かながわ農業アカデミー」で本格的に就農を目指すまでのお試し期間として位置づけています。
- ◆塾生には、15箇所ある農地のひとつを貸しています。ここで2～3年経験を積むことで、地域の農家やJAとのネットワークが広がり、就農する際に土地を借りやすい関係性を築くことができます。

## ご苦労されたことがあれば教えてください

- ◆周りに住宅地が多く、近隣住民の農業理解の難しさがあると感じます。そこで、農業への理解を醸成するために、地域の方々に畑に来てもらい、自分達の取組や想い、都市農業の大変さなどを伝える「畑の見学ツアー」を行っています。身近に農業があることで、都市農家への「身内感」や「お互い様の精神」を生み出していきたいと考えています。
- ◆また、地元小学校の「農業授業」に力を入れています。子供達には、収穫等の単発の体験だけでなく、観察や間引き・草むしりなどを通して、複数回畑に通ってもらいます。子供の頃の原体験として記憶に残るほど農業に触れてもらうように意識しています。
- ◆さらに、食品ロスの問題・SDGsについて考えてもらうきっかけとして、まだ食べられるのに捨てられてしまう野菜の活用方法を考えるプログラムを行っています。地域の飲食店や福祉施設の協力のもと、野菜を使った加工品の開発や、学校給食、飲食店でのメニュー提供などを行い、子供達が「循環」を実体験できる機会を提供しています。
- ◆一番の目的は、身近に農業があることに目を向けてもらうことです。畑に知っている農家がいることで、農業を身近に感じてもらえると思います。



## 今後の展望を教えてください

- ◆将来的には、プロのシェフを雇い、地産地消の野菜にこだわった農家レストランを開きたいと考えています。
- ◆西谷地域は、都心から畑までおよそ10分でアクセスできる地域です。20～30年後の未来を考えると、都心からすぐ近くにある畑の存在はとても貴重になると思います。今回日本農業賞にこだわった理由も、都市部の農業が地方に負けない賞を取れることを証明することで、子供達や消費者の意識を変えることができると思ったからです。

## 千葉県松戸市 鵜殿ソラファーム 鵜殿敏弘さん

## 北限ぎりぎりでも新松戸産レモンを栽培！

生産緑地内に直売所やドリンクショップを開業し、地産地消で安心・安全なレモンを提供



## Point

直売・加工

大学連携

環境負荷低減

## Data

経営面積		従業員	
70a うち市街化区域内 70a (生産緑地 70ha)		家族 5人	
売上高			
～1000万	1000万～3000万	3000万～	
栽培別内訳			
[露地 (70a)] レモン (マイヤー)、その他柑橘等			
[施設]		[その他]	

鵜殿さんの農地は、千葉県松戸市新松戸の5か所に点在し、すべて市街化区域内に位置している。農園に併設した直売所とドリンクショップは、JR新松戸駅からおよそ1kmのバス通り・けやき通り沿いに立地している。

## 取組の特徴を教えてください

- ◆松戸市の生産緑地で、レモンの生産を行っています。農園内には直売所「MONPE (モンペ)」、テイクアウトドリンクショップ「M+ (エムプラス)」を併設し、6次化にも取り組んでいます。
- ◆畑が住宅地に近いことから、無農薬・低農薬栽培に取り組んでおり、また、輸入レモンの防カビ・ワックス剤を使用していないため、皮まで安心して使える「新松戸レモン」として、地域の方だけでなく、都内など多くのお客様から人気を集めています。
- ◆収穫したレモンや加工品は、直売所、近隣の飲食店 (ケーキ屋、バー)、都内マルシェ等で販売しています。レモンの売上は平日50～60kg、休日は100kgほどで、売れ行きは好調です。
- ◆大学連携として、東京大学、千葉大学、流通経済大学と交流があります。病虫害防除の助言をいただいたり、無農薬レモンの枝を使った研究や、地産地消のプロジェクトの協力を行っています。



## レモン栽培を始めたきっかけを教えてください

◆レモン栽培に取り組む前は、花卉や野菜を生産していましたが、連作障害で収量減少の課題に悩んでいました。そのとき、弟が経営する園芸店のレモンの木を畑に植えたところ、よく育ったことから、住宅地でも経営展開できると思い、2013年頃から本格的にレモン栽培を始めました。

◆国内のレモン産地は温暖な気候の瀬戸内海沿岸が中心であり、周囲で相談できる農家がないため、基本的に独学で、冷害や病害虫にどう対処するか試行錯誤しながら取り組んでいます。その結果、2020年には400本の木から約10tのレモンを収穫することができました。



## 直売所・6次化の取組について教えてください

◆2017年の生産緑地法改正により、生産緑地内に直売所が作れるようになったことから、2018年に直売所「MONPE」、2022年にドリンクテイクアウト専門店「M+」を開設しました。

◆直売所はレモンの収穫シーズン（10月～3月）のみの営業となりますが、ドリンクショップは、収穫したものを冷凍保存しドリンクに加工することから、通年で営業することができます。ドリンクショップの商品開発や運営は、娘に任せています。

◆また市内の有名ケーキ屋（パティスリーハヤトヤマダ）と連携し、レモンを使った焼き菓子等も販売しています。



## 課題があれば教えてください

◆相続の際に、農地は納税猶予がありますが、直売所等の宅地部分は支払いがあるため、相続のタイミングで農地が減少してしまいます。相続税を価格に転嫁することは難しいですが、付加価値を付けて「いいものを高く」販売していきたいです。

◆ありがたいことに、様々な方からレモンの購入や商品開発等のお問い合わせをいただく一方で、供給量が中々追いついていない現状です。規模拡大の思いもありますが、相続税の不安や栽培適地が見つからないというジレンマを感じています。

## 今後の展望を教えてください

◆レモンの生産を始めて10年以上になりますが、現在の経営面積で15t/年の収量を目標に、これからも試行錯誤しながらレモン栽培に取り組みたいです。

◆環境負荷軽減やアウトドア流行の観点から、レモンの剪定枝を使った燻製用チップの開発を考えています。

◆松戸市は、二十世紀梨の発祥地として知られていますが、もっと多くの方に「新松戸レモン」を知っていただき、将来はレモンの産地にしていけたらいいと思います。

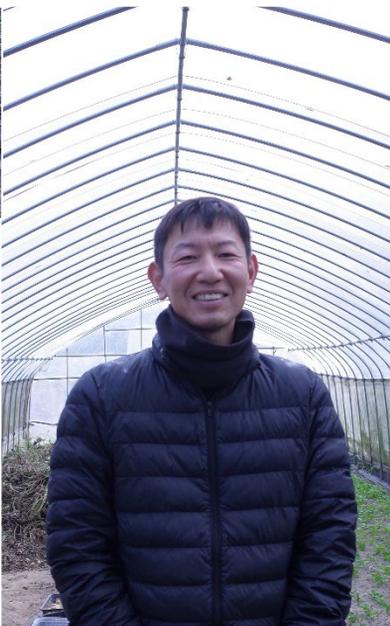
## 京都府京都市 修学院扇子 扇子次郎さん

## 安心安全な野菜・お米づくりを追求！

農薬や化学肥料を使わない農業を目指し新規就農



京都府京都市



## Point

少量多品目

都市農地貸借法

環境負荷低減

## Data

経営面積		従業員	
80a うち市街化区域内 40a (生産緑地 26a) 市街化調整区域内 14a		1人	
売上高			
～1000万	1000万～3000万	3000万～	
栽培別内訳			
[露地 (80a)] 季節野菜、米			
[施設 (1棟)] 小松菜等		[その他]	

扇子さんの農地は、叡山電鉄修学院駅周辺の市街化区域と市街化調整区域の交わる地域に点在している。また、宮内庁が所有する修学院離宮の敷地内の水田を一部管理している。

## 取組の特徴を教えてください

- ◆少量多品目の季節野菜やお米を有機農法で生産しています。水菜や小松菜、ニンジン等の定番野菜をはじめ、源助だいこんやかつお菜、バターナッツかぼちゃなど、お客様に喜んでいただける美味しい品種を選んで栽培しています。
- ◆肥料はよく踏み込んだ落ち葉堆肥や畑の残渣を有効活用し、動物性堆肥を使わない農法にこだわっています。子どもたちが安心して食べられる野菜づくりを心掛けています。
- ◆生産した野菜は、生協や有機野菜を取扱うレストラン等で販売しています。お客様からは、通常の野菜と比べて「味が濃い」「えぐみが少ない」と好評です。
- ◆生協の売り場では、手書きのPOPを作成し、珍しい野菜は特徴や料理方法を分かりやすく表示するように工夫しています。
- ◆京都府の援農隊マッチングサイトに登録しており、夏野菜の苗植え等の繁忙期は援農ボランティアに手伝っていただいています。アクセスが良く手軽に農作業を体験できるため、多くの方に参加いただいています。



## 就農のきっかけを教えてください

- ◆元々は木工職人をしていましたが、2012年に知人から紹介を受け、農業法人のスタッフに転身しました。そこでは、慣行栽培による野菜づくりに携わってきましたが、次第に農薬や化学肥料を使わない農業を実践したいという思いが強くなり、独立を決意しました。
- ◆独学で有機農法を学んでいましたが、有機農業の研究者で大学教授の西村和雄さんの書籍にたどり着き、自らコンタクトを取ったところ、栽培指導を受けられることになりました。

## 修学院離宮の水田について教えてください

- ◆修学院離宮の敷地内の水田を4反管理しています。修学院離宮の水田は、田中角栄が景観保全のために周囲の水田一帯を買い上げた経緯があり、現在は従来の農家が継続して耕作している状況です。
- ◆水田は2箇所に分かれており、最も上流に位置している水田では、栄養を含んだ水が溜まるため、今後力を入れていきたい品種「旭」を生産しています。旭は京都発祥の原種米で、粒が大きく味が良く、もち米と交配していないため米アレルギーの人も食べられることが特徴です。なお、下流の水田では「ヒノヒカリ」を生産しています。



## 農地の貸借について教えてください

- ◆消費地に近い農地は見つからず、農家さんの引退や相続のタイミングでないと借りられないため、耕作放棄地を耕すことから始めました。最近ようやく条件の良い農地を紹介してもらうことができ、やっとスタートラインに立てた気持ちです。
- ◆日頃から地主さんとの関係性を大事にしています。以前、借りている農地の地主さんが亡くなり、家族が農地に老人ホームの建設を検討していたことがありましたが、地主さんの「農地を残したい」という遺言により、農地を維持することができました。

## 今後の展望を教えてください

- ◆新規就農で土地探しや農法、販路開拓等で紆余曲折し苦労したため、後続の若手たちには、ノウハウを伝授し、近道で農業経営を成功してほしいと考えています。また、意欲のある若手を集めて産地化することが今後の目標です。
- ◆現在は一人で営農を行っていますが、規模拡大のため、近いうちに雇用できるよう進めています。
- ◆今後は加工品の生産として味噌づくりを計画しています。味噌は腸の働きを活性化しデトックス効果もあるため、食べてくれた人には健康になってほしいです。これからも安心安全で美味しい野菜・お米の生産を追求していきたいと考えています。



- ✓ 都市部では、従来の市民農園だけでなく、農家以外の多様な主体が運営するコミュニティ農園が増えており、コミュニティの再生、環境教育や食育といった地域課題解決に貢献しています。
- ✓ また、人口減少や高齢化により都市の空洞化が進む中で、市街化区域内に生まれた空き地を緑地・農地として活用したり、魅力あるまちづくり、コミュニティづくりの一環として空き地を農園化するなどの動きが現れています。
- ✓ 今回、都市農地・農的空間を活用したコミュニティ農園の取組を事例として紹介します。

今後の取組の参考にご活用ください。

## 事例一覧

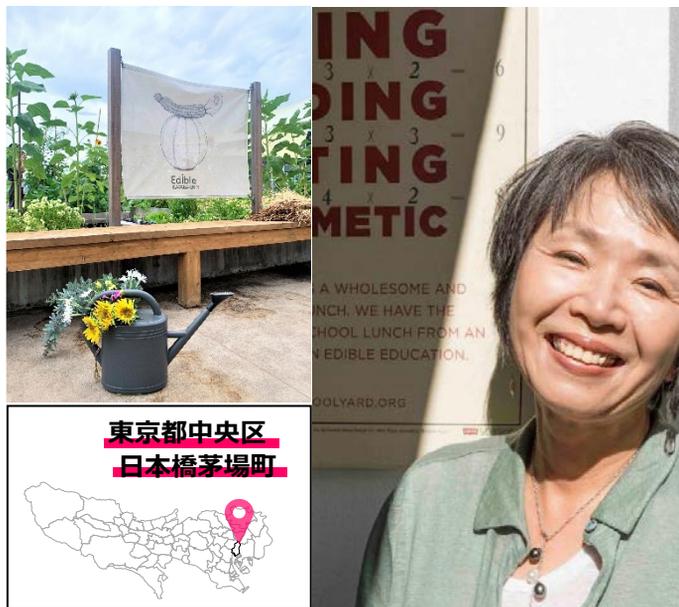
- |          |   |    |
|----------|---|----|
| <b>1</b> | <b>Edible KAYABAEN</b> 農的空間/食育/循環型農業  | 27 |
|          | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 東京証券会館の屋上で子どもたちの食育の場を創出！</li> </ul>    |    |
| <b>2</b> | <b>たもんじ交流農園</b> 農的空間/伝統野菜/コミュニティ醸成  | 29 |
|          | <ul style="list-style-type: none"> <li>● ワインづくりを通して都市農業の魅力を発信！</li> </ul>       |    |
| <b>3</b> | <b>シェラトンファーム</b> 農的空間/環境負荷低減/コミュニティ醸成   | 31 |
|          | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 都市住民と連携し循環型農業を実践！</li> </ul>           |    |
| <b>4</b> | <b>コミュニティファーム尼崎市善法寺</b><br>都市農地貸借法/伝統野菜/コミュニティ醸成                                | 33 |
|          | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「田能の里芋」ブランド化を通して都市農号を未来へつなぐ</li> </ul> |    |

## 東京都中央区 Edible KAYABAEN

## 東京証券会館の屋上で

## 子どもたちの食育の場を創出！

丁寧なコミュニティを形成し、トライ&amp;エラーで循環型の屋上菜園を実現していく

東京都中央区  
日本橋茅場町

(一社) エディブル・スクールヤード・ジャパン代表 堀口博子さん

## Point

農的空間

食育

循環型農業

## Data

## 農園の概要

[場所] 東京都中央区日本橋茅場町 東京証券会館屋上

[面積] 約600㎡ (25区画 / 1区画 0.77㎡~4㎡)

[設備] フォレストガーデンエリア, ファームエリア, キッチン, ピオトブ, コンポスト, シネマステージ, 芝広場 等

## 運営体制

一般社団法人エディブル・スクールヤード・ジャパン (5名)  
/ 平和不動産株式会社 / 株式会社ユニバーサル園芸社

## 農園開設の経緯を教えてください

◆Edible KAYABAENは、日本橋兜町・茅場町の地域活性化を推進する平和不動産株式会社が、株式会社ユニバーサル園芸社、一般社団法人エディブル・スクールヤード・ジャパンと連携し、持続可能な地域循環の実現と子供たちの教育に貢献するため、所有する東京証券会館の屋上に開設した屋上ファームガーデンです。

◆当菜園の運営を担っている(一社)エディブル・スクールヤード・ジャパンは、2020年に本プロジェクトに参画しました。その後、1年かけて計画、2021年11月に着工、2022年5月に開園しました。開園に係る費用は平和不動産及び地域企業協賛により賄われています。

◆当菜園はパーマカルチャー\*の考えに基づいた循環型農業を実践しています。菜園の設計には、パーマカルチャーデザイナーの本間フィル・キャッシュマン氏が関わっています。 \*パーマメント(持続性)、アグリカルチャー(農業)、カルチャー(文化)を組み合わせた概念

◆屋上菜園には、荷重制限、夏の酷暑、強風、安全面など多くの課題がありますが、パーマカルチャー「問題の中に解決策がある」という考え方をモットーに、トライ&エラー、試行錯誤しながら取り組んでいます。



## 取組の特徴を教えてください

- ◆Edible KAYABAENのガーデンとキッチンをフィールドに、食と農・子どもたちの自然学校「アーススコーレ」を開催しています。都市部に生まれ育つ子供たちが、身近に本物の自然と親しみ、“育てること、食べること、観察すること”を通して学ぶことができる、食育菜園プログラムです。
- ◆また、大人向けのコミュニティプログラムとして、循環型屋上菜園の実現に向けたより実践的なワークショップ等を行っています。若い世代を中心にコミュニティの輪が広がってきています。
- ◆レンタルガーデンとして、当菜園のレイズドベッド3枠を地域の企業に貸し出しています。企業では、社員の親睦会など福利厚生の一環として利用いただいています。
- ◆近隣の中央区立阪本小学校では、当菜園を利用して2年生の生活科の授業を行っています。



アーススコーレのプログラム実施の様子

## 取組のきっかけを教えてください

- ◆元々は編集者として活動しており、2003年頃にサンフランシスコで地域の人々が農業に携わる姿に出会い、興味を持ちました。その中で、学校の校庭に畑を作り、子供たちが教科連携による食・農教育を受ける「エディブル・スクールヤード」の取組に感銘を受け、2006年に『食育菜園 エディブル・スクールヤード』を出版、2014年に（一社）エディブル・スクールヤード・ジャパンを設立しました。
- ◆2014年には、多摩市立愛和小学校で日本初のエディブル・スクールヤードを取り入れた菜園学習が始まりました。当時の校長に声をかけていただいたのがきっかけで、現在は、全学年の生徒が必修授業として取り組んでいます。菜園の管理は、保護者により結成された学校菜園サポーターが積極的に関わり、週末に親子で草刈りをするなど、栽培管理全般を担ってくださっています。

## 工夫したことがあれば教えてください

- ◆菜園を中心に人が集まりコミュニティを育てること、丁寧に時間をかけてお互いを知り、尊重し合える関係づくりを意識しています。誰もがこの場所を心地よいと感じられることが大切です。
- ◆コミュニティの中に、アーティスト、シェフ、大学教授など、多様な人たちが参加すると活気のあるより良い取組になると思います。また、収穫物で料理をしたり、美味しいものを一緒に食べる、食卓を囲む環境を作ることをとても大事にしています。



## 今後の展望を教えてください

- ◆アーススコーレは平和不動産の支援のもと行われていますが、将来的には企業協賛を増やし、子どもたちの未来に投資いただく理念を広め、自走化することが不可欠です。そのために、アーススコーレの教育的価値と地域のニーズを繋げることが目下の目標です。
- ◆また、新しい職域として菜園学習や食農教育に関わる人が増えていくことを期待しています。

## 東京都墨田区 たもんじ交流農園

## まちなかのコミュニティ農園で

## 江戸野菜・寺島なすの復活！

農地のない墨田区で、地域の交流拠点となるコミュニティ農園を開設



東京都墨田区



## Point

農的空間

伝統野菜

コミュニティ醸成

## Data

## 農園の概要

[場所] 東京都墨田区墨田5-30-19

[面積] 660㎡ (全12枠 24区画 / 1区画11.5㎡)

[設備] 農園、ピートープ、ウッドデッキ、芝広場、ピザ窯、ブドウ棚 等

## 運営体制

NPO法人 寺島・玉ノ井まちづくり協議会  
(会員25名、うち農業部隊12~13名)

## 農園開設の経緯を教えてください

- ◆東京都墨田区は、緑被率は23区内で下から2番目と緑が少なく、農地・農家が存在しない地域です。
- ◆当協議会は、商店街のまちおこしのため、旧寺島村（現在の東向島）で江戸時代に栽培されていた江戸東京野菜「寺島なす」の復活と普及プロジェクトとして、苗の配布や東向島駅前の花壇などで栽培を行っていました。しかし、活動を続けていく中で、もっと広い場所で寺島なすを作りたいと声が上がリ、農園の創設を検討していました。
- ◆そのような中、区内北部にある多門寺の臨時駐車場を「地域の役に立てれば」と、住職の厚意により無償で貸していただけることになり、野菜の栽培を通してさまざまな人の交流が生まれ、地域が活性化することを目的に、2017年に「たもんじ交流農園」の開墾を始めました。
- ◆駐車場は雑草が生い茂る砂利地だったため、農業用の土を入れ替えるなど、手作りで農園を作りあげました。協議会メンバーでどのようなコミュニティ農園にしたいかしっかりと時間をかけて話し合い、3カ年計画で農園を創設しました。
- ◆農園づくりに係る費用は、「すみだの夢応援助成事業\*」等の助成金を積極的に活用しました。 \*墨田区のふるさと納税制度を活用したクラウドファンディング



before



after

## 取組の特徴を教えてください

- ◆農園では、全12枠（23㎡/枠）ある畑を2分割したものを1区画（11.5㎡）として使用しています。そのうち4区画は、協議会用の区画として農体験やイベント用に寺島なすなどを栽培し、それ以外の区画は、月5,000円で会員に貸し出しています。
- ◆会員向けの区画では、利用者は自由に作付けができます。ただし、ナスについては交配のリスクがあるため、寺島なすに限定しています。
- ◆利用者は、墨田区を中心に近隣の方が多く、子育て世代から高齢者まで幅広い年代層の方に利用いただいています。また、福祉団体や中小企業の団体に借りている区画もあります。空き区画の利用者を募集した際は、当選倍率が10倍となり、かなり需要が高いことが分かりました。
- ◆昨年は約5,200個の寺島なすを収穫できました。今年からは、土壌菌を増やす自然農法に挑戦し、安全で健康的な野菜作りに取り組んでいます。
- ◆農園には交流の場として、芝生広場やウッドデッキ、ピザ釜、ビオトープ等を整備しています。現在ビオトープでは、循環装置（水車を活用した水還流システム）を導入し、虫が生息できるきれいな水質環境を目指しています。



## 苦労したことがあれば教えてください

- ◆元々はお寺の臨時駐車場として固定資産税は非課税でしたが、当農園は公的な活動をしているのにも拘らず、雑種地として固定資産税が発生しました。そこで、国交省が推進する「市民緑地認定制度\*」の導入を墨田区提案し、2022年に区内初の認定を受け、固定資産税の軽減を受けられることになりました。 \*良好な都市環境の形成に不可欠な緑地・オープンスペース創出するため、民間主体が空き地等を活用して公園と同等の空間を創出する制度。
- ◆なすは連作障害がでやすいため、接ぎ木をする必要がありますが、その技術が中々難しいです。また、寺島なすは栽培管理の手間ひまがかかる上、生産力の少なさから、認知度の低さが課題となっています。そこで、墨田区内の公園で「寺島なす★祭り!」を開催し、寺島なすの認知度向上や生産者と飲食店のマッチングの促進を行っています。



## 今後の展望を教えてください

- ◆区内には、江戸時代に将軍へ献上する寺島なすをはじめとした江戸野菜を栽培していた「御前裁畑（ごせんざいばた）」の跡地があります。そこに、その場所に江戸野菜の栽培エリアや、ホテルの住処となる里山のような環境を整備することで、歴史や文化に触れながら、豊かな自然環境を感じられる、世界に誇る都市型観光農園の創設を促したいと考えています。
- ◆コミュニティ農園は、防災農地という観点からも非常に重要だと考えています。災害時の避難場所や食料の供給だけでなく、人と人のつながりを大切に、日頃からコミュニケーションをとれる関係性を築き、防災・減災に役立てていきたいです。



## 兵庫県神戸市 シェラトンファーム

## 人工島 六甲アイランドに

## 農ある風景を創出！

ホテル併設の商業施設の屋上で、貸し農園を開設



## Point

農的空間

環境負荷低減

コミュニティ醸成

## Data

## 農園の概要

[場所] 兵庫県神戸市東灘区向洋町中2-13  
リバーモールイースト屋上

[面積] 144㎡（全16枠 / 1区画9㎡）

[設備] 貸し農園、農器具庫、コンポスト等

## 運営体制

神戸ベイシェラトン ホテル&タワーズ /  
ナチュラルリズムファーム / 江副 真文氏

## 農園開設の経緯を教えてください

◆シェラトンファームは、神戸ベイシェラトン ホテル&タワーズ、ナチュラルリズムファーム（市内西区で有機農業を営む大皿夫妻が主催する生産組織）、地元クリエイターの江副 真文氏が連携し、六甲アイランドにある商業施設の屋上花壇を活用し開設した屋上貸し農園です。

◆同ホテルでは、ホテル北側にある商業施設のオーナー交代をきっかけに、遊休化していた屋上花壇の活用を検討していました。その中で、ナチュラルリズムファームの大皿氏より「都市部でも農業に親しめる場にしたい」と提案があり、2020年夏から農園づくりを開始しました。

◆雑草の草刈りや木枠づくり、土入れなどの作業は、市民参加型のワークショップ形式で実施し、六甲アイランドの住人や農業に関心のある市内の方など、計3回の開催で延べ70名に参加いただきました。

◆半年にわたる畑づくりを経て、神戸市が促進するアーバンファーマーミング事業\*のモデル農園第1号として、2021年3月に貸し農園「シェラトンファーム」をオープンしました。第1期の利用者を募集した際には、ワークショップ参加者からも申込みがあり、一週間足らずですべての区画が埋まるほど、反響をいただきました。



\*神戸市では、新たな食文化の都「食都神戸」の構築を進めており、都市部で農に触れる機会を創出するアーバンファーマーミングを推進し、支援事業を展開している。

## 取組の特徴を教えてください

- ◆農園には9㎡(3m×3m)の区画が16枠あり、そのうち1区画は当ホテルが利用・管理し、その他は一般の方に利用いただいています。利用者は六甲アイランドの住人や東灘区の方が多く、利用期間は半年間としていますが、継続利用を希望される方がほとんどです。
- ◆農園の利用に当たって事前説明会を開催し、無農薬栽培の実践や「一緒に農のある風景をつくりたい」という思いに共感してくれた方に利用いただいています。
- ◆農園のルールは、農薬と化学肥料を使わないこと。無農薬栽培であれば、野菜や花など自由に作付けができます。また、農園内には農機具庫があり、クワやスコップ等を用意しています。
- ◆居心地の良い場所づくりを意識しており、土に触れる機会が少ない六甲アイランドの癒しの場、地域との交流の場を提供しています。



## 工夫していることを教えてください

- ◆毎週、農家が訪れる「サポートDAY」を設け、日々の栽培で困ったことがあれば自由に相談できる運営体制を整備しています。サポートDAYを通じて農園利用者の交流が生まれ、地域のコミュニティとしてゆるやかな繋がりが生まれました。
- ◆農園の取組を地域の方に伝えたいという思いから、3ヶ月に1回「GREEN FARMERS MARKET」を開催し、野菜の販売をするほか、畑の様子を自由に見学できるように農園を一般開放しています。
- ◆2023年には、観光庁の支援の元、地元の食文化にふれる旅「ガストロノミーツーリズム」として、市内の酒蔵見学やシェラトンファームを屋外レストランの舞台としたプログラムを実施しました。多くの参加者に土や野菜に触れてもらい、地元産食材の魅力を知っていただく良い機会になりました。



農園に掲示されているサポートDAYの当番表



GREEN FARMERS MARKETの様子



## 今後の展望を教えてください

- ◆これからも「農」をきっかけとしたコミュニティづくりを継続することで、六甲アイランド生まれ・育ちの子ども達に「農」に触れる楽しさを知ってもらえるよう頑張りたい。そして、シェラトンファームの活動を通じて関わってくださる皆さんが、自分の「食」を見直すと共に、生産者のこと、日本の農水産業や食について考えるきっかけになればと思います。
- ◆まだ農園として活用されていない屋上花壇があり、今後調理スペースなどのイベントエリアとしての活用を検討しています。
- ◆2022年には、未使用エリアに小麦と大麦を植え、パンやビールづくりに取り組むプログラムを企画しましたが、麦は鳥に食べられてしまい、収穫には至りませんでした。今後は十分な対策をした上で、コミュニティで六甲アイランド生まれのパンやビールづくりに再挑戦したいと考えています。

## 兵庫県尼崎市 コミュニティファーム尼崎市善法寺

## 「田能の里芋」ブランド化を通して

## 都市農業を未来へつなぐ

地域の方や障がい者が共生するコミュニティ農園を運営し、都市農地を維持していく



## Point

都市農地貸借法

伝統野菜

コミュニティ醸成

## Data

## 農園の概要

[場所] 兵庫県尼崎市善法寺町 27-29

[面積] 約3,000㎡ (生産緑地)

[設備] 農園, 直売所, 農機具庫, ピザ窯 等

## 運営体制

園北ファーム 内田大造氏 (代表)

株式会社JR西日本あいウィル

ボランティア (中心メンバー15名程度)

## 農園開設の経緯を教えてください

- ◆コミュニティファーム尼崎市善法寺は、田能地域のコミュニティ農園「園北ファーム」とJR西日本の障がい者雇用を促進する特例子会社「JR西日本あいウィル」が共同運営するコミュニティ農園です。
- ◆園北ファームは、猪名寺自治会長を務める内田大造氏が、農あるまちづくりの実現のため、2018年に農地を借りてスタートしたコミュニティ農園です。行政・JAの後押しもあり、尼崎市内の都市農地貸借法の認定第1号として、耕作されなくなった生産緑地を借り受けました。地域住民をはじめ、近隣の小学校や幼稚園、若年性認知症の方などを受け入れ、コミュニティで野菜を栽培・収穫する取組が特徴です。
- ◆JR西日本あいウィルでは、昨今のデジタル化やコロナ禍をきっかけに、基幹事業である印刷業以外の障がい者の新たな活躍の場として、農業への参入を検討していました。2021年からは、JR西日本のアセットを活用し、駅構内や遊休スペースで地域の野菜販売を始めました。その中で、いつかは農業生産にも挑戦したいと相談していたところ、農家が高齢になり手つかずとなっていた生産緑地の紹介を受け、2022年4月から園北ファームと共同経営として「コミュニティファーム尼崎市善法寺」を始めることになりました。



## 取組の特徴を教えてください

- ◆尼崎の伝統野菜「田能の里芋」をはじめ、年間を通して少量多品目の季節野菜を、農薬や化学肥料を使用しない有機無農薬農法にこだわって栽培しています。
- ◆月・水・金は農園を開放し、併設する直売所で野菜を販売しています。安心・安全な野菜を購入できる究極の地産地消の場として、地域の方ももちろん、食への問題意識の高いママさん層にも好評です。
- ◆より多くの方に農の魅力を知ってもらうため、収穫体験イベントを実施しています。収穫以外にも、ピザづくり体験やお料理教室、畑でお絵かき体験など、工夫を凝らしたイベントを企画し、毎回20～30名の参加者に楽しんでいただいています。イベントの告知や申込はSNSを活用しています。
- ◆農園の日常的な管理は、半農半Xで参加しているボランティアの方々に支えていただいています。障がい者の方には、繁忙期にスポット的に農作業を手伝っていただいています。



## 「田能の里芋」のブランド化について教えてください

- ◆今後の収益性向上につながる取組として、尼崎の伝統野菜「田能の里芋」のブランド化に力を入れています。
- ◆田能の里芋は、直売所のほか市内の「コープこうべ」で販売しています。きめ細やかでなめらかな食感に、ほんのりした甘さが感じられ、味わいは大好評です。
- ◆地域の大学生・加工業者と連携し「田能の里芋コロッケ」を開発し、学校給食に提供するプロジェクトを行っています。2023年11月には、約2万個のコロッケを中学校の給食に提供しました。
- ◆2023年9月からは、近畿経済産業局の「地域団体商標等を活用したブランディング支援事業」に採択され、ブランド化に向けた取組が本格的に始動しました。地域の合意形成に向け、行政、生産者、JA、企業等で検討会議を行っています。
- ◆田能の里芋のブランド化を通じて、都市農業を維持するきっかけにしたいと考えています。認知度を上げることで、収益性を高めていくことや、里芋のファンクラブを作り、その中から農家の担い手を育てていくことが目標です。



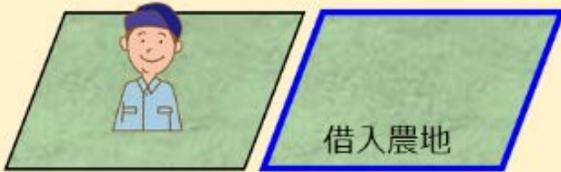
## 今後の展望を教えてください

- ◆都市農地は地域コミュニティの再生の場として非常に重要であるため、これからも地域のコミュニティと一緒に農業を続けていきたいと考えています。
- ◆都市農業は、地域との調和・理解がなければ成り立たないと感じます。農園開設当初は、近隣住民から「機械のエンジン音がうるさい」等と言われてしまうこともありました。今では、みどりのある風景に共感し、一緒に農作物の成長を見守り、応援してくれる住民の方が増えてきています。

○ 平成30年9月に都市農地（生産緑地）を借りやすくするための措置を講じた「都市農地の貸借の円滑化に関する法律（都市農地貸借法）」が施行されました。

都市農地貸借法の活用方法

農業経営の規模拡大



隣接する農地を借り、経営を効率化

新規就農



農地を借りて新規就農

法人化



立ち上げた法人に賃借権を設定し、法人化

事業承継



後継者に賃借権を設定し、事業承継

グループで取組



代表者が農地を借り、グループで野菜を生産し、直売（農業経営は代表者が主宰）

学童農園の開設



幼稚園が農地を借り、園児が農作業を体験

- 農林水産省では、令和5年度より、宅地の農地転換による農地の創設や都市部の空閑地における農的空間（非農地を活用した農園等）の創出、地方部における生産緑地の導入促進を目指す都市農業者や農業団体、行政の関係者の連携体制の構築等を支援します。

### 1 宅地等の農地転換による都市農地の創設



都市農業者等の所有する駐車場、アパート等が老朽化し、荒廃の恐れ

- ・ 農地転換
- ・ 生産緑地指定
- ・ 都市農地貸借



- ・ 市民農園等の整備
- ・ 既存生産緑地と一体となった一団の農地空間の創設

### 2 宅地等の空閑地を活用した農的空間の創出



老朽化、高齢化が進行する団地

- ・ リノベーション
- ・ 若年層の入居



農をきっかけとしたコミュニティの形成

### 3 地方部における生産緑地制度の導入の促進



生産緑地地区に指定されていないため、農地の宅地化が進行

- ・ 生産緑地制度の周知



生産緑地への指定により、長期的な農業経営が実現

- 農地に関する税制は、高額な税負担により農業経営の維持が困難となる可能性があることに配慮した制度となっており、市街化区域内農地に係る相続税、固定資産税は、生産緑地とそれ以外の農地の区分などに応じ、課税条件や評価が異なる仕組みとなっています。
- 平成30年度税制改正において、都市農地の貸借の円滑化に関する法律に基づき、生産緑地を貸借した場合には、相続税の納税猶予措置が継続されることとなりました。

相続税の納税猶予について

相続税納税猶予制度の適用条件

	三大都市の 特定市	三大都市圏の特定 市以外の市町村	納税猶予期間の終了事由 とならない貸付け
市街化区域内 の農地	適用なし	適用 (20年継続免除)	営農困難時の貸付け(※1)
生産緑地 地区	適用 (終身営農が 必要)	適用 (終身営農が必要) (※3)	営農困難時の貸付け(※1) 都市農地貸借法等による政 策的貸付け
農振農用地等	適用 (終身営農が必要)		営農困難時の貸付け(※1) 基盤法等による政策的貸付 け(※2)

(※1) 営農困難時の貸付けとは、猶予期間中に身体障害等により営農継続が困難となった場合の農地の貸付けをいう。

(※2) 基盤法による政策的貸付けに係る特例は、市街化区域を除いて認められている。

(※3) 既適用者に対する経過措置として、①既存の納税猶予適用農地を引き続きすべて自作する場合は、20年継続免除を適用、②適用農地を貸し付けることも可能(この場合、適用農地はすべて終身利用する必要。)

固定資産税について

	三大都市圏の特定市	三大都市圏の特定市以外の市町村
市街化区域内 の農地	宅地並評価・宅地並課税	宅地並評価・農地に準じた課税(※)
生産緑地地区	農地評価・農地課税	農地評価・農地課税
農振農用地等	農地評価・農地課税	農地評価・農地課税

※三大都市圏の特定市以外の市町村の市街化区域農地は、評価は宅地並となるものの、課税の際には負担調整措置(税額の増を前年度比最大+10%までに抑制する措置)が講じられる。

- 令和元年度税制改正において、個人事業者向けに、後継者が事業用資産を先代から承継した際に課される贈与税・相続税の負担が大きく軽減されることとなりました。
- この制度は個人事業者の農林水産事業者もご活用いただけます。

## 1 多様な事業用資産が対象です

事業を行うために必要な、多様な事業用資産が対象です。

- **農地等以外の土地・建物** [畜舎、ライスセンター等] (土地は400㎡、建物は800㎡まで。)

※農地等の贈与・相続については、別途、納税猶予制度が措置されており、これを活用できる。

- **機械・器具備品** [トラクター、コンバイン、自動計量器等]

- **車両・運搬具・船舶** [トラック、漁船等]

- **生物** [乳牛、樹体等の償却資産]

- **無形償却資産** [漁業権、育成者権等] 等

【農業用施設】



【農機具】



【乳牛(育成、肥育を除く)】



## 2 相続税だけでなく、贈与税も対象です

生前贈与による、**早め早めの事業承継の準備を応援**します。

## 3 対象資産の納税額の全額(100%)が納税猶予されます

後継者の承継時の**現金負担が軽減**されます。

## 3 対象資産の納税額の全額(100%)が納税猶予されます

**平成31年1月1日～令和10年12月31日の間**に行われる相続・贈与が対象です。  
待ったなしの課題である事業承継を、集中的に支援します。

- ・ 制度を活用するためには、
  - ①経営承継円滑化法に基づく認定が必要です。
  - ②令和7年度末までに、予め承継計画を都道府県知事に提出する必要があります。  
※青色申告者が対象
- ・ 既存の事業用小規模宅地特例との選択制です。

# MAFF

## 問い合わせ先

令和6年2月

農林水産省農村振興局農村政策部  
農村計画課都市農業室

〒100-8950

東京都千代田区霞が関1-2-1

TEL 03-3502-8111 (代表)

03-3502-5948 (直通)

[https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/tosi\\_nougyo/index.html](https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/tosi_nougyo/index.html)